



坪内逍遙

坪内逍遙

(つぼうちしょうよう 1859-1935)

つぼうちしょうよう めいじ たいしょう しょうわ がくしゃ
坪内逍遙は、明治・大正・昭和時代の文学者です。
しょうよう げんざい ふ きん そだ
逍遙は現在の太田小学校付近で生まれ、育ちまし
た。名前をゆうぞうといひます。子どものころは、「ひつじ
どしう 生まれの かみく い虫」といわれるほど、絵をかくこと
がだいすきな少年でした。めいじ 2年、名古屋にひっこ
して、多くの書物を読んだり、しばいを見たりして少
年時代をすごしました。その後、とうきょうだいがく
早稲田大学の教授をつとめました。

しょうせつしんずい どうせいしよせい かたぎ
『小説神髓』『当世書生氣質』などを発表し、日本の
近代文学者としてかつやくしました。また、えんげきなどの
ふたい活動を高めるために力をつくしたり、外国の文
学作品を日本にしょうかいしたりしました。特に、イギリ
スのシェイクスピアの全作品を日本語に直したことは、
すばらしい仕事でした。

しょうよう きねん しょうよう み の
市内には逍遙を記念した「逍遙公園」やJR美濃太田
駅前しょうよう ぞう しょうようけんしょうかい ほっそく
に逍遙の像があります。逍遙顕彰会が発足し、
しょうよう もよお
逍遙をたたえる行事を毎年催しています。

また、太田小学校では1月に「山椿の会」という活
動を続けています。市ではえんげきや文学などで優秀な
活動をしたこじん だんたい しょうようたいしょう
個人・団体に対して「逍遙大賞」をおくっ
ています。



逍遙の書いた本



太田小学校「山椿の会」